

進行胃癌の1例

山内周¹、田淵真彦²、星智子²、長嶋大輔²、長嶋愛子²、廣岡大司²

泉大津市立病院中央検査科病理¹、同消化器内科²

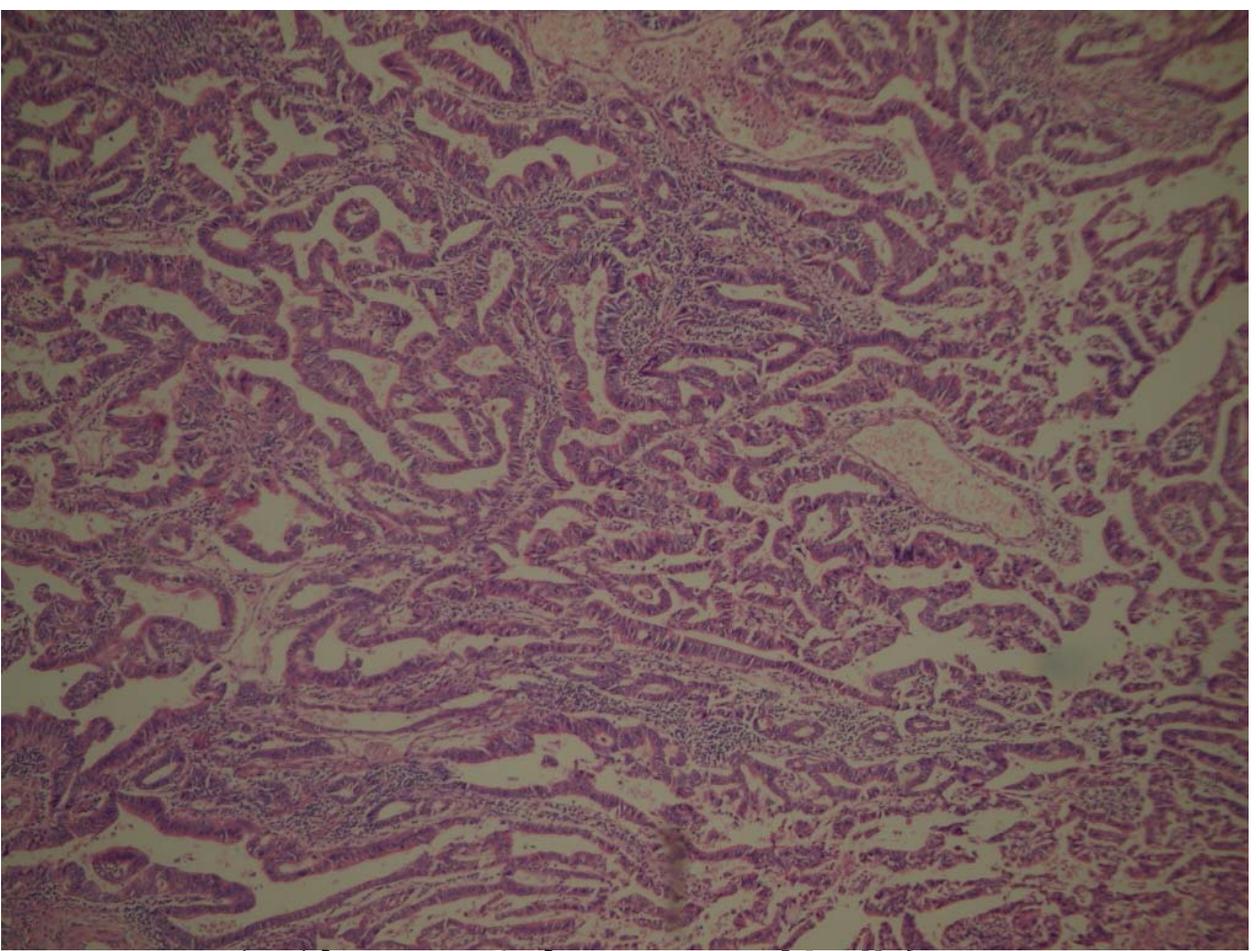
56歳 男性。平成19年12月、近医で胃体下部後壁～大弯に進行胃癌3型を指摘され、他院紹介受診となった。以降、免疫療法等施行し経過観察となった。その後病状進行し、食事摂取不能となり近医入院。腫瘍による幽門狭窄、腸閉塞を認め加療となった。平成20年4月21日、second opinion 目的に当院消化器内科受診、入院となった。入院後の腹部CT上、幽門部を中心に一塊とした腫瘍があり、脾、空腸浸潤も認め腸閉塞をきたしていた。また腹膜転移による直腸狭窄も認めた。全身状態不良、食事摂取不可能にて外科的治療、化学療法の適応はなく、経静脈栄養、胃管による胃液ドレナージによる保存的加療となった。その後腫瘍は増大し、全身状態悪化し、6月6日永眠された。腫瘍の拡がり浸潤状態の検索目的で病理解剖となった。



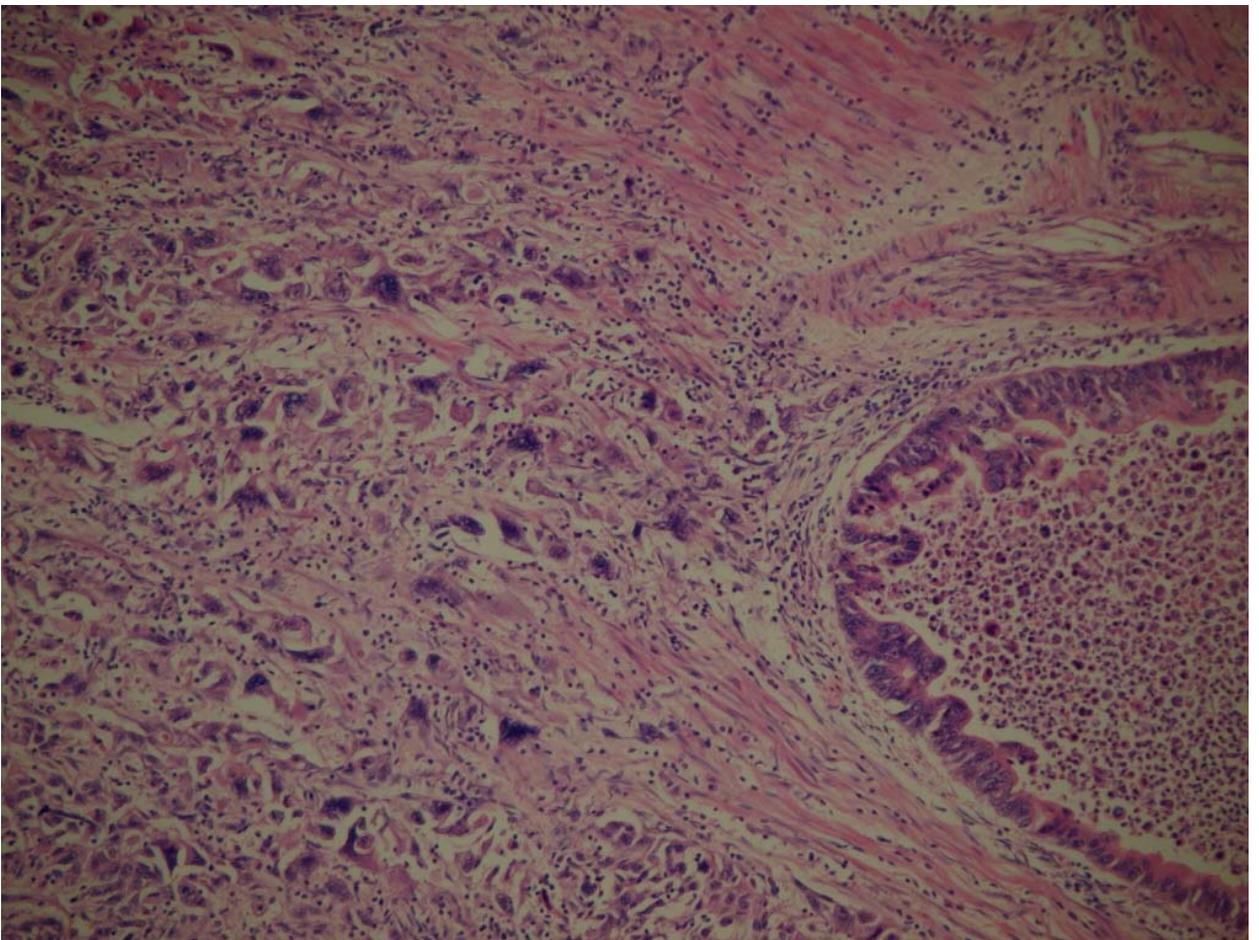
肉眼1：胃、十二指腸を巻き込む腫瘍



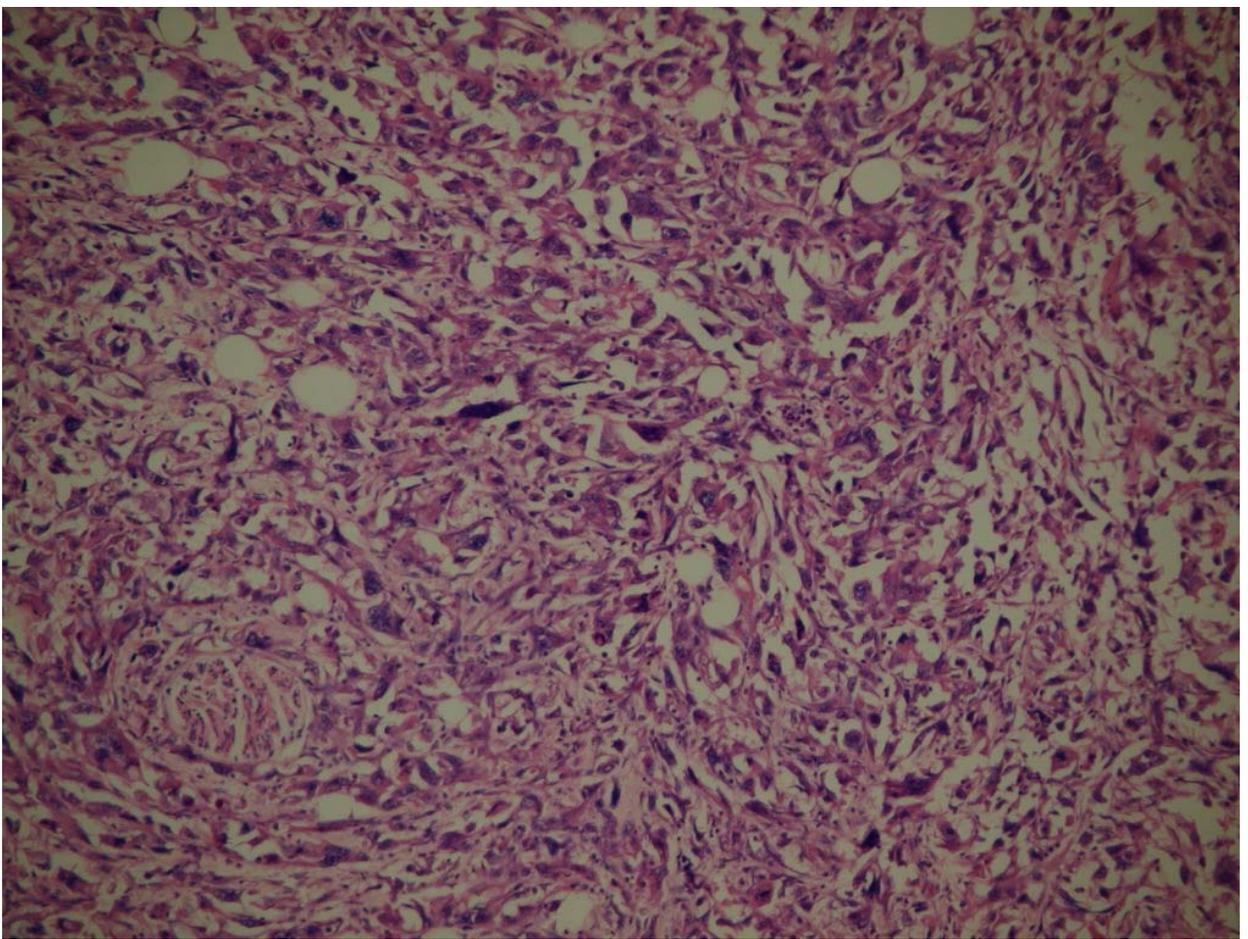
肉眼2：断面



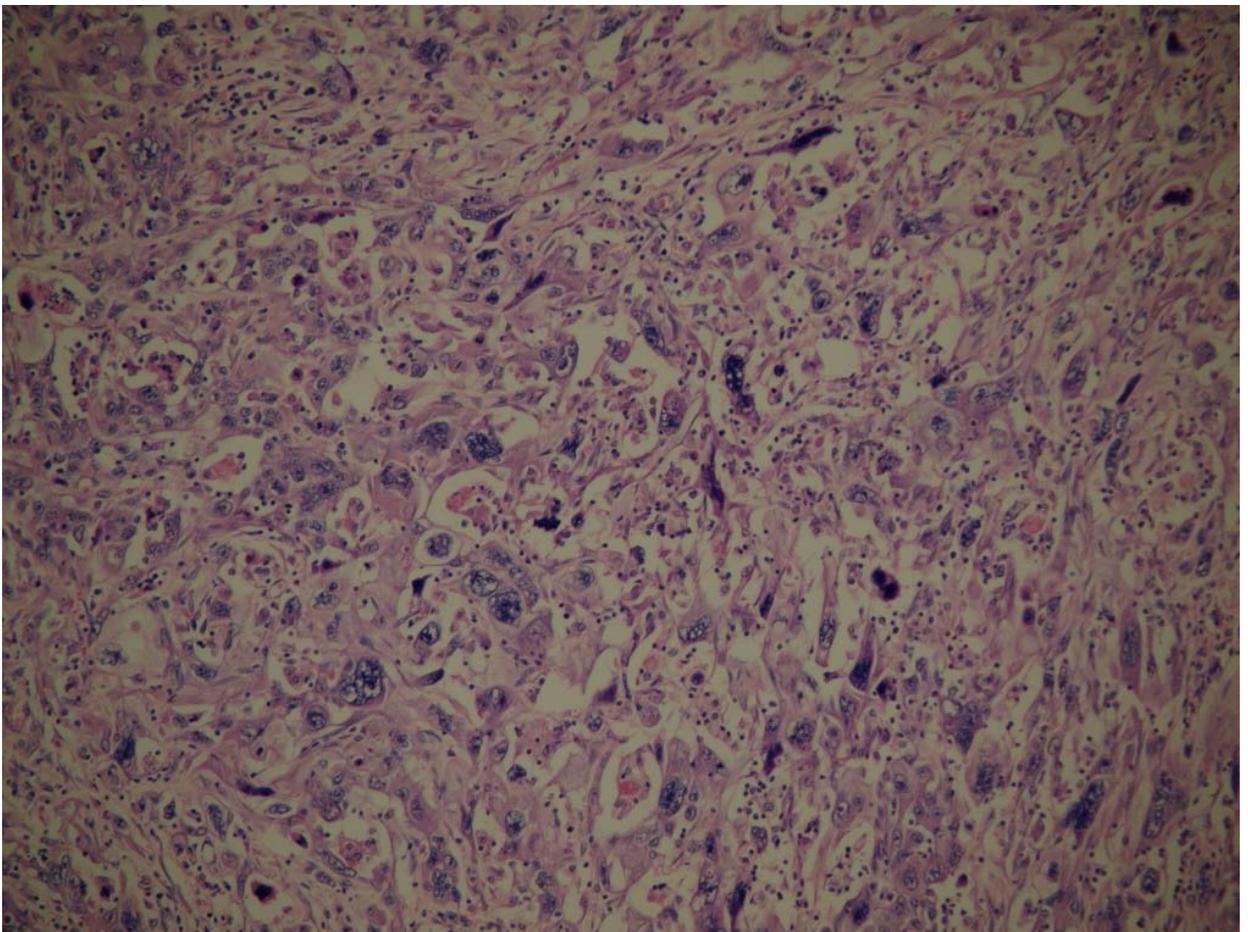
組織1：腫瘍。胃の粘膜側。



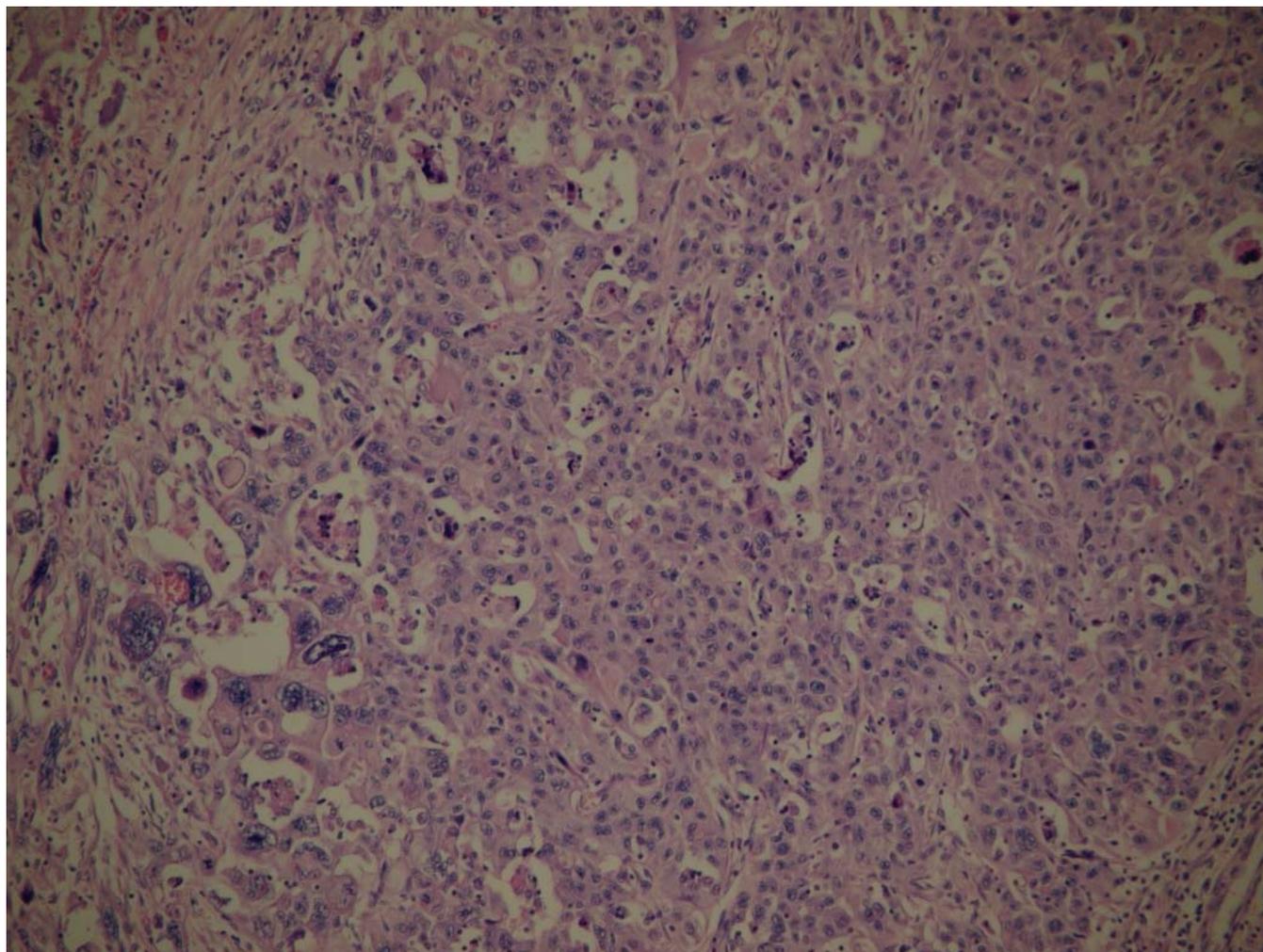
組織2：腫瘍。胃の固有筋層以深-1



組織 3 : 腫瘍。胃の固有筋層以深 - 2



組織 4 : 腫瘍。胃の固有筋層以深 - 3



組織 5 : 腫瘍。胃の固有筋層以深 - 4